

小諸 オモシロ 農家

10人いれば、10通りの農との関わり方があります。小諸市農ライフアンバサダーの**武藤千春**が、この地で農を営むオモシロ農家の生き生きとした活力溢れる農ライフをお届け。

番外

昨年12月、小諸市で開催された国内最大の米の品評会《米・食味分析鑑定コンクール・国際大会》。その中で、小諸を拠点にさまざまな形で農に携わる5人でのトークセッションを行いました。登壇いただいたのは、家業を継ぎながら林檎のお酒作りにも取り組む音楽好きな宮嶋伸光さん、小諸市に縁ある梅栽培を探求する吉澤俊彦さん、体の内側から美しくなるお米作りをする清水博人さん、小諸のお米を愛しすぎているお米マイスターの村松丈徳さん。農との携わり方はバラバラですが、それぞれの偏愛を突き詰め、《好き》に忠実に向き合いながら農ライフを送っているオモシロい農ライフアーたちです。農に携わる人は本当に感性が豊かでクリエイティブ。農作物を作ったり、届けたりしていく中で楽しいと感じること、おつかる壁、モヤモ

ヤすることなど、ざっくりばらんに意見を交わしました。どんなこともポジティブに変換し、良い部分にも悩んでしまう部分にも、常に真っ直ぐに向き合いながら進む彼らの姿を見て、「農の未来は明るいぞー」とワクワクさせてもらえました。特に印象的だったのは、「一人一人が食べるものに対して責任を持って考える」という言葉。自分の物差しを持ち、しっかりと自分が口に入れるものや暮らしと向き合い選択していくことで米の豊かさを作っていくんだなと感じます。熱を帯びた1時間のトークセッションは、改めて私に農のオモシロさを再認識させてくれた時間でした。

はら
ま
は
ら
続
き
こ
ち

